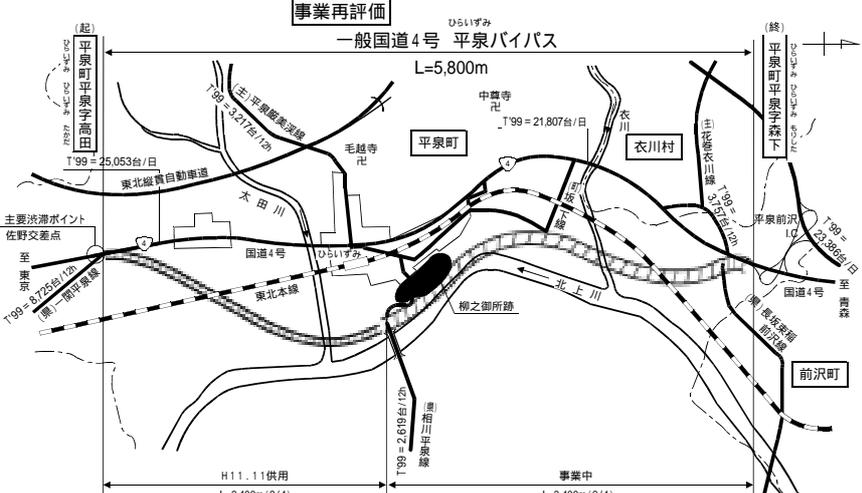


## 再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課  
担当課長名：中島 威夫

<b>事業名</b> 一般国道4号 <small>ひらいずみ</small> 平泉バイパス	<b>事業区分</b>	一般国道	<b>事業主体</b>	国土交通省 東北地方整備局								
<b>起終点</b> 自：岩手県西磐井郡平泉町平泉字高田 至：岩手県西磐井郡平泉町平泉字森下	<b>延長</b>			5.8 km								
<b>事業概要</b> 国道4号は、東京都中央区と青森県青森市を結び、広域交流の支援並びに沿線市町村の連携強化を図る幹線道路である。平泉バイパスは、平泉町内の国道4号の交通混雑の緩和及び、災害時における代替路の確保を目的としている。												
<b>S56年度事業化</b>		<b>H6年度都市計画決定</b>		<b>S57年度用地着手</b>								
<b>S59年度工事着手</b>												
<b>全体事業費</b>		約260億円		<b>事業進捗率</b>								
		47%		<b>供用済延長</b>								
		2.4 km										
<b>計画交通量</b> 18,300台/日												
<b>費用対効果分析結果</b>	B/C	<b>総費用</b> (残事業/事業全体)	<b>総便益</b> (残事業/事業全体)	<b>基準年</b> 平成15年								
	(事業全体) 1.5 (残事業) 2.9	146/331億円 (事業費：121/306億円) 維持管理費：25/25億円	427/484億円 (走行時間短縮便益：411/474億円) 走行費用減少便益：14/9億円 交通事故減少便益：2/2億円									
<b>事業の効果等</b> ・災害への備え（国道4号が通行止になった場合の代替路線を形成する） ・生活環境の改善・保全（平泉町・文化庁等と調整を図り、景観に配慮した設計としている） 他16項目に該当												
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> 平泉バイパスは、交通混雑の緩和、災害時の代替路の確保等に重要な役割を果たすことが期待されており、平泉町をはじめとする関係7市23町9村の首長で構成される岩手地区国道協議会より早期整備の要望（平成15年7月29日）を受けている。												
<b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b> この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。												
<b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b> 【執行済み額】 事業費：120億円（進捗率47% [暫定56%]） うち用地費：35億円（進捗率98%）												
<b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b> 柳之御所遺跡の発掘調査から、遺跡を永久保存するための都市計画変更及び、バイパスルート変更に伴う作業（設計、用地等）に長期間を要していたが、現在は事業進捗に係る問題は解決しており、平成10年代末の全線供用を目標に事業推進を図る。												
<b>施設の構造や工法の変更等</b> 盛土量及び、必要用地の縮減のため、一関遊水地堤防と合併施工する等コスト縮減を図っている。												
<b>対応方針</b> 事業継続												
<b>対応方針決定の理由</b> 以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。												
<b>事業概要図</b>												
												
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 50%;">凡</th> <th style="width: 50%;">例</th> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;"></td> <td>供用中</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #e0e0e0;"></td> <td>再評価箇所</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #d3d3d3;"></td> <td>うち供用中</td> </tr> </table>	凡	例		供用中		再評価箇所		うち供用中				
凡	例											
	供用中											
	再評価箇所											
	うち供用中											

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。